

未来館 News 臨時版 Vol.3

福島県男女共生センター広報誌 2012.02

今年度の未来館 News は、都合により臨時版として発行いたします。

事業レポート!

「浪江町応援イベント」

日時 平成23年11月6日(日) 10:00~15:00 会場 福島県男女共生センター

福島県男女共生センターがある二本松市には、浪江町の方々が多く避難されてきており、2011年5月からは、当センターに浪江町役場が移転しています。

毎年11月に浪江町で行われてきた十日市祭、今年はこのような時だからこそ浪江町民が集い、絆を確かめたいと、「復興なみえ町十日市祭」として二本松市内で開催されました。

センターでは、この祭にあわせ11月6日(日)に「浪江町応援イベント」としてさまざまな企画を実施しました。

笑顔の展覧会 ~NGOチーム3ミニッツ(大阪市)~

Tシャツ型画用紙に描かれたメッセージを、洗濯物を干す様に展示しました。メッセージの中には、被災された皆さんへの応援の言葉や復興に向け、日夜活動されている方への想いが込められています。



ボランティアカフェ ~未来館ボランティア~

おいしいお茶とおしゃべりでホッと一息できる癒しのカフェ空間と、リサイクル用品の提供をしました。ボランティアと浪江町の方が思い出話や避難生活での苦労や悩みについて話す場面もありました。



一店逸品フェア ~一店逸品研究会~

二本松市商店街連合会が、お店の「私のイチ押し」商品をずらりと並べ、二本松市で生活している浪江町民の皆さんに紹介(販売)しました。



農産物直売コーナー ~JAみちのく安達~

取れたて新鮮で、安全・安心な野菜を、JAみちのく安達さんのご好意により、浪江町の方へお安く提供しました。



カントリーマムズマーケット ~NPO法人しんぐるまざあず・ふおーらむ・福島~

NPO法人しんぐるまざあず・ふおーらむ・福島が、女性の経済的自立支援として布草履や小物雑貨製作を企画、販売しました。



ビーズアクセサリー展示 ~浪江町ふれあいビーズアクセサリーの会~

浪江町から福島市に避難をしている浪江町ふれあいビーズアクセサリーの会の皆さんが、きれいに飾り付けたビーズアクセサリーを出展しました。



事業
レポートⅡ

女性と子どものための“放射線と健康”セミナー

～「フクシマ」で安心して暮らしていくために～

(主催: 福島県男女共生センター / 共催: (社)国際女性教育振興会福島県支部)

日時 平成23年10月1日(土)
13:30~16:15

会場 福島県男女共生センター
第2研修室

女性や子ども達が東日本大震災や福島第一原子力発電所事故による不安を少しでも解消し、安心して福島で暮らしていけるよう、放射線が母体と子どもに与える影響やその対処法について正しい知識を身につけるために開催した「女性と子どものための“放射線と健康”セミナー」の様子を報告します。県内各地から、約100名の県民が自分や家族のために放射線について学ぼうと、参加しました。

第1部 講演

講師

蜂谷 みさをさん

(独立行政法人放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター)
運営企画ユニット企画・研究推進室 室長



講演では「身の回りの放射線」「放射線の種類と性質」「放射線の人体への影響」「子どもに対する放射線の基礎」「内部被ばく(食品を介した健康被害)」などについて、特に、子育て中、妊娠中の母親や父親がいかに今回の福島第一原子力発電所事故によって不安を抱いているかということをお話いただきました。

講師の蜂谷さんは、今回の原発事故に関して、「チェルノブイリやJOCの事故で終わりだと思っていたが福島で事故が起きてしまい非常に残念です。こんなことは起きてはいけなかったと思っています。また、起きる頻度も非常

に低いものですから、国民はどういうことが起きたのかよくわからない。そういった“わからない”ということが不安につながります。不安を少しでも減らすためには、まずは、知るということが大切です。」ともお話しされました。

講演後は、「母乳を授乳する人が気を付けることは何かありますか」「友人が、線量を下げするために子どもを連れて週末だけ県外に出かけたりしていますが、有効なのでしょうか。出かけること自体が負担だと感じて継続したほうがいいのでしょうか?」といった参加者の声に対し、蜂谷さんは「お母さんとしては心配だと思うが、自分が食べるものをきちんとチェックし

た上で安心して食べれば、授乳のときにお子さんも安心するでしょう。お母さんが不安だとお子さんも不安になるかもしれません」「県外へ出かけること自体が負担だと感じるのであれば、今は無理に出かける必要はないと思います。身体への影響というのはストレスなども大きく関係します。」といった意見交換もなされました。



第2部 茶話会

講演会終了後は、(社)国際女性教育振興会福島県支部の会員が進行役となり、参加者同士が不安や悩みなどを共有し、交流するための茶話会を行いました。

第1部の講演会の感想、子育て・食べ物の不安、震災や原発事故での体験などについて、自分なりの考えや不安を率直に語り、お茶を飲みながら和やかに進みました。各グループとも1時間では足りないほど話題はつき

ず、とても盛り上がりました。



参加者の声

- 難しい放射線に関するお話を身近に感じることができました。講演の後の茶話会があるセミナーの形式は、とても良いと思いました。
- インターネットや本などを見てみると、色々異なる事が書いてあるので不安でしたが少し気持ちが楽になりました。
- 他の参加者の意見を聞くことができ、大変参考になりました。
- 自分の考えを整理しながら、これから前向きに生活していきたいです。
- 福島でこれからも生きて行くために、このセミナーに参加して良かったです。
- 娘たちにもこのセミナーの内容を伝えたいです。
- 自分たちでチェックするなど、できることをするというのを学びました。
- 近所の人たちが県外に避難してしまいましたが、自分も避難したほうが良かったのか不安でしたが少し落ち着いたと思います。
- 子どもがいるので、今回のセミナーに参加してよかったです。
- これからもわからないことを1つ1つ消していくために、学び続けたいと思います。
- 子どもへの影響について、もっと知りたいと思いました。
- 今後も不安をどう解消していくか、自分なりにチェックしていきたいです。



図書室の放射線に関する図書を紹介します

福島原発事故後、放射線についての図書が数多く出版されています。センター図書室でも関連図書を所蔵しています。その一部を紹介します。

みんなで生き抜く防災術

小学館防災チーム 編 小学館

地震 停電 放射能
東日本大震災から私たちが学んだこと

原子力発電、原子力災害に関する基礎知識や基礎用語、外部・内部被ばくを防ぐ方法を簡潔に解説しています。その他、地震や停電への対応・備えなどについてコンパクトにまとめられています。

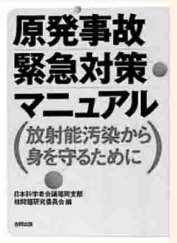


原発事故緊急対策マニュアル

日本科学者会議福岡支部核問題研究会 編 合同出版

— 放射能汚染から身を守るために

福島原発事故で「安全神話」が崩壊した今、市民の命と健康を守るために知っておくべき原発と放射能の知識について、科学者の立場から「核」の問題を調査研究してきた団体が解説しています。



なさけないけどあきらめない

鎌田實 著 朝日新聞出版

医師で、チェルノブイリに何度も医療支援に入った著者が、福島原発事故後福島に入り、医療関係者や市民等と直接話した経験や、事故直後から書きためたノートを紹介しています。表題どおり、「なさけない」と憂いつつ、できることから「あきらめない」でやっつけていこうと提案していて、困難な状況の中でも前向きな気持ちになることができます。



放射能の中で生きる、母たちへ

野呂美加 著 美術出版社

チェルノブイリからフクシマへ、子どもの命を守る知恵

野呂美加さんは、19年間、チェルノブイリの子どもたちを保養のため1ヶ月間日本に招待するという支援活動を続けてきた方です。その野呂さんが、これまでの体験をもとに放射能から子どもの命を守るためにできることについて述べています。放射能とともに生きていかなければならない私たちにとって、心強いメッセージです。



紹介の図書は、貸出・閲覧できますので、ぜひご利用ください。【問い合わせ先】 福島県男女共生センター図書室 電話0243-23-8308

復興に向けた取り組みを紹介します おしゃべりカフェ「コスモス」 いわきふれあいサポート

いわき市で、配偶者等からの暴力など、人権侵害を受けている女性たちの支援活動をおこなっている市民団体「いわきふれあいサポート」では、震災後、おしゃべりカフェ「コスモス」をスタートさせました。お茶とお菓子でくつろぎながらいろいろな思いを話せる場として始められたそうです。

第3回のおしゃべりカフェ「コスモス」では、はじめに「お楽しみ企画」として、二胡の演奏会が行われました。二胡の音色に癒された後は、お茶を飲みながらのおしゃべり。和やかな雰囲気でもとても居心地のいい空間でした。

カフェを運営するスタッフの皆さんにお話を伺いました。

●きっかけ

いわきふれあいサポートは、平成14年に設立以来、DVなどの人権侵害を受けている女性たちの支援を行ってきました。

おしゃべりカフェ「コスモス」は、そのような女性たちが自立した後も孤立しないよう、地域で集まれる居場所づくりとして、昨年度から考えていた事業でした。私たちは、毎週水曜日の夜間、相談を行っていますが、自分から相談できない人もいるだろうと思い、こちらから出向いていこうと考えたことがきっかけです。

民報厚生文化奨励金事業として、今年4月から始める予定でしたが、東日本大震災があり、当初予定していた時期には始められなくなってしまいました。いわき市には地震や原発事故により仮設住宅や借り上げアパートに避難している方も多く、そのような方たちの中にもDVで悩んでいる人もいられるだろうし、避難所で暴力を受けたという話も聞いたため、

そういった方たちが話をする場所があればと10月から仮設住宅近くの公民館で始めました。

●これから

10月にスタートし、12月までに3回開催しました。これまでに大熊町の方など参加され、ここが久々の再開の場になることもあって、私たちスタッフも感激しました。

今後も月1回、実施していきます。顔を合わせて直接話をする事で、問題が見えてきたり、何回か通って誰かと話をしているうちに、つながりができ、問題が解決したりするのではないかと思います。これからもゆっくりと少しずつ取り組んでいきたいです。

●おしゃべりカフェ「コスモス」今後の予定

3月7日(水) お楽しみ企画【歌声喫茶 懐メロを歌おう】
時間は午後1時30分～3時30分
場所はいわき市社会福祉センターです。

●問い合わせ先

いわきふれあいサポート 電話・FAX 0246-21-7235

●いわきふれあいサポート電話相談

毎週水曜日18時～20時
電話0246-21-7235
(いわきふれあいサポートの皆さんの詳しい活動については、未来館NEWS第30号で紹介しています。)



福祉機器展示室(センター1階)では、 福祉用具の展示・紹介・相談を行っています!

約700点の福祉用具を展示し、実際に体験することもできます。また、福祉用具・住宅改修や介護に関する相談も受け付けています。展示室内にはユニバーサルデザインコーナーもあり、グッズやパネル、書籍などをご紹介します。(※福祉用具の販売はしておりません。)

福島県福祉用具・住宅改修相談事業 ※利用料は無料

東日本大震災の被害で家が倒壊し、住宅の新築や改築、改修をお考えの方もぜひご利用ください。

福祉用具の活用や住宅改修の相談に対し、専門家チーム(県理学療法士会、県作業療法士会、県建築士会、県福祉機器協会)からなる相談員が相談者宅へ同行訪問し、的確な指導・助言で、快適な生活へのサポートをしています。

また、住宅改修事例に対する指導・助言も行っています。ケアマネジャーの学習会等にもぜひご利用ください。

情報提供

福祉用具・高齢者介護に関するビデオ・DVDや書籍をご覧ください。また、介護講座や健康情報の案内なども行なっています。



さまざまな福祉用具・機器を展示しています

(問い合わせ先) 福祉機器展示室 電話 0243-23-8316

未来館ボランティアが運営した「被災者の方のためのリサイクルコーナー」が好評でした

未来館ボランティアの有志が7月から「被災者の方のためのリサイクルコーナー」を設置し、無料でリサイクル品の提供を行いました。

「食器や夏物の衣類がない」という被災者の方の声を聞き、ボランティアが知人の方などに家庭で眠っている食器や衣類などの提供を呼びかけたことがきっかけでした。浪江町役場に支援に来ていた他県の方が自費で品物を送ってくださったり、近隣の方も品物を届けてくだ

さったりしたこともあり、支援の輪がどんどん大きく広がり、集まった品物を洗ったり、仕分けしたりするボランティアもしばしば嬉しい悲鳴をあげていました。リサイクルコーナーを訪れた被災者の方からも大変好評で、噂を聞いて遠くからわざわざ足を運んでくださる方もいました。※なお、「被災者の方のためのリサイクルコーナー」は平成23年12月末で終了しました。

県内外からたくさんの支援の品が寄せられ、常設・無料・無人、そしてきれいなリサイクル品ということで被災者の皆様には大変喜んで頂き、またその笑顔に私たちも励まされました。

品物を寄せてくださった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(未来館ボランティア有志代表 杉林千太子)



未来館
news

福島県男女共生センター広報誌

2012.02 臨時版 vol.3

編集・発行

(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター「女と男の未来館」
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
TEL (0243) 23-8301(代) FAX (0243) 23-8314
ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>
メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp

女と男の未来館

検索